

学習プログラム開発をしよう

(A) グループメンバー (藤#, 栗栖, 上杉, 金子, 亀#)

テーマ **高齢者教育**

市の概要
B
はちねと市

個人の要望

- ・仲間づくり
- ・世代間交流
- ・生きがいづくり
- ・地域社会への参加
- ・健康づくり
- ・時間の有効活用

社会の要請

- ・少子高齢化
- ・互い合い、見守り
- ・世代間交流
- ・健康づくり
- ・地域社会への参加
- ・高齢者の就業問題
- ・施設の充実

地域課題

- ・旧住民と新住民との交流を図る。
- ・世代間交流の充実
- ・高齢者同士のつながりを強める。
- ・高齢者の特技や学習成果を、地域社会の中で、役立てる。

学習目的

- ・多様な交流と連携をはぐくむことにより、高齢者が輝く地域づくり

学習目標

- ・高齢者が、伝承あそびや工作(特技)を通じて、子ども達と交流を深め、自身の価値に気づいて、自信を持って、主体的に地域社会に参加できるようになる。
- ・高齢者が、地域の自然の魅力を伝え、環境保全の大切さを学びともに、地域に参画を促す。
- ・高齢者が、子育て世代と交流することにより、地域ぐるみで子育てを支援する意識が芽生える。

【学習プログラムを開発しよう!】

(A) グループメンバー (藤井 栗柳、亀井 金子、上杉)

1 学習目的

多様な交流と連携を促すことにより、高齢者が輝く地域づくり

2 学習目標

- ・ 高齢者が、伝承あそびや工作(特撮)を通じて、子ども達と交流を深め、自身の価値に気づいて、自信を持って、主体的に地域社会に参加できるようになる。
- ・ 高齢者が、地域の自然の魅力を伝え、環境保全の大切さを学ぶとともに、地域に愛着をもつ。
- ・ 高齢者が、子育て世代と交流することにより、地域ぐるみで子育てを支える意識が芽生える。

3 プログラム名

まちの匠に 全員集合!!
～ わたしが変わる。きっと輝く。～

4 対象・定員

どなたでも (子どもから大人まで)
50人

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算定の根拠も明確にする。)

1回目 500円 3回目 無料 (ただし、各アソビごとに材料費発生)
2回目 300円 (材料代、保険代)

6 事前に必要な知識や準備物

- ・ 当学区の確認
- ・ マーケットの作成、シール
- ・ 100円札の準備
- ・ グラウンドゴルフの道具、スコア表、賞品
- ・ 救急箱、AED
- ・ 山行草のおり
- ・ 名札
- ・ 自己紹介シート
- ・ 折り紙
- ・ 山野草を入れた袋
- ・ ホンダゴルフバッグ

7 留意点

- ・ 安全面の配慮
- ・ 個人情報の取り扱いには十分気を付ける。

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
1回 4月13日 (日) 10:00 ~14:00	カウンセラー コルフだよ!! 全員集合	◎ 3とち、秋子、高齢者の交流を図る。 ・ アイスブレイク、自己紹介 ・ ケーウ → 順任カレ → 賞品 ・ パンパネー (参加費) 500円 (準備物) スコア表、グランドレポート、パンパネー	地球住民 (カウンセラーコルフ 愛好者) ファミリーター	カウンセラー 公園	<ファミリーターにおき 情報収集 ・ 新しい友達お てアタカ ・ 次日も参加 したい
2回 4月29日 おとりの日 9:30~ 13:30	山野草だよ!! 全員集合 (里山ハイキング)	◎ 高齢者が地球の自然の恵みと伝え、 環境保全の大切さを学ぶ。 世代間交流を通じて、地球に愛着を もつ。 ・ ハイキング ・ 山野草を採って、山菜料理を食す。 (黒豆入り汁、味噌あじの刺身と 入れたお茶、世の葉茶、てんぷら等) (参加費) 300円	地球住民 (山野草に詳しい 10名程) ファミリーター	里山	<アンケート記入> ・ 1回目も参加した おとりの日 ・ 地球の自然の 恵みを実感でき た。 ・ 新しい友達お てアタカ ・ スタッフ参加して おたのしみ ・ 活動可能な日程
2回~3回 の間	作戦会議 (数回)	3日目開作に向けた準備		公民館	
3回 10月11日 (日) 10:00~ 12:00	あそびだよ!! 全員集合	◎ 伝承あそび工作(特撮)を通じて、 3とちと交流を深め、自分価値に気づ いて自信を付ける。主体的に地球社会に 参加できるようにする。 ・ あそびのコース (伝承あそび、特撮 加) ・ 3とち相談コース 各コース(資料のものにPR)とスタッフ 3人でまわす。 (参加費) 各コースごとに教材費も...	地球住民	公民館	<アンケート記入> 高齢者スタッフ ・ また、活動に 参加したい と思う。 ・ 活動内容 ・ 不満点、改善 すべき点は何 か。 ・ 3とちも、3とち 達に開いてい たい。

月1回
交流講座

参加者 (保護者等)

- ・ 年代
- ・ 1950年代から70年代
に参加したいと思う

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(A.) グループ メンバー (藤#, 栗栖, 上杉, 金子, 亀#)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

フアウンドゴルフだよ!! 全員集合

○学習目標

子ども、親子、高齢者の交友を図る。

2 回・日時・場所

○回・日時

第 / 回

4 月 13 日 (日) 10 時 00 分 ~ 14 時 00 分

○場所

フアウンド、公園

3 講師、指導者、支援者

地域住民、ファシリテーター

4 準備物

○参加者

どなたでも (子どもから大人まで)

○主催者

教育委員会、老人会、各自治会、フアウンドゴルフ協会、体育協会、女性会、
公民館職員

5 会場図

(A) グループ

6 実施計画

時刻	内容	留意点
9:30	スタッフと打合せ。(7:45~10:20) <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全面への配慮 ・ 参加人数 ・ 世代間交流の目的であることを、予人と伝えておく。(班編成) ・ 一日の流れ(スケジュール)の説明。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフ用名札。
9:45	受付開始 自己紹介シートの日付	<ul style="list-style-type: none"> ・ 穿甲板、長机(1)、受付名簿、ホコック ・ 受付 職、地味色紙。
10:00	オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座の目的や目標、日程について説明する。 ・ アイスブレイクを行い、班編成をする。 ・ 自己紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水分補給などの体調を入手。 ・ 班編成の年齢層のバランスに注意する。
10:30	ゲーム スタート <ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームのルール説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム用具 ・ 結果は、ゲーム、個人の成績に付き。
12:00	結果発表 → 終了 11:15~12:00 会場に移動	
12:20	11:15~12:00 開始 <ul style="list-style-type: none"> ・ 班編成に配慮し、みんなの前で述べる。 ・ 参加者全員の自己紹介(1分程度)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 司会... 地味色紙 進行係... アシスタント
12:00 重要	<ul style="list-style-type: none"> 高年齢には、趣味や特技を聞かせる。 予と予は、氏名、学年、所属を記入して聞かせる。 GG表発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11:15~12:00 セット。(5セット) ・ 飲み物、紙のつぼ、紙皿、はし。 ・ 筆手。 ・ 自己紹介の記録者。(職員) 賞品、賞状、写真
13:40	片付け (全員で)	<ul style="list-style-type: none"> ・ コップ袋
13:55	閉会のあいさつ 次回プログラムの紹介、千原に配布 スタッフへのお礼	<ul style="list-style-type: none"> 司会... 職員 あいさつ... 自治会長 次回プログラムの予

同時進行

女性会員の
11:15~12:00の
準備を始める

アイスブレイク、Xマス
筆記用具

学習プログラム開発をしよう

(B) グループ メンバー 西村, 山田, 岡田, 木下, 田中, 新庄, 古玉

テーマ **青少年教育**

市の概要

B

(中Aが入っている)

個人の要望

- (1) 世代間交流をする (子どもの中でも)
- (2) いろいろな体験がしたい (農業, ものづくり)
- (3) 地域外からもいろいろな友だちがほしい。

社会の要請

- (1) 地域資源の活用 (地域の特色を生かす)
- (2) 社会性を育む (家庭・学校・地域などが連携)
- (4) 学習機会や具体的な活動の場 (伝統芸能・文化の体験)

地域課題

- 人間関係希薄
- 交流の場がない (おでんだてをしないといけない)

学習目的

- 地域住民のかかわった, 楽しく豊かな体験活動により, 地域を愛する社会性のある青少年を育成する。

学習目標

- 青少年が企画・準備段階から関わることで, 社会性を身につける。(例. しめなわ, お店, まつり, とんど, やきもの etc.)
販売することで社会性を身につける。

【学習プログラムを開発しよう!】

(B) グループ メンバー ()

1 学習目的

・地域住民のかかわった、楽しく豊かな体験活動により、地域を愛する社会性のある青少年を育成する。

2 学習目標

・青少年が企画・準備段階から関わることで、社会性を身につける。(例、しめ縄、お店、祭り、とんど etc.)

3 プログラム名

パレット子どもまつり

4 対象・定員

小学校から高校生まで 35人 (5人の7グループ)

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

学習参加者のお金をとるのかどうか? ・祭の売上げを企画の経費とする
消費品等の経費は公民館費で負担、
~~材料費~~

6 事前に必要な知識や準備物

会場石確保、 下等用品準備、 保険所等への申込

7 留意点

安全 (火事等)、 金銭管理上、 雨天時の対応

大人の各種団体から協力金を求める。→最初
(5月の会議で協力金) 青少年健全育成会等

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
① 5月	支援者による 祭の目的共有	◎地域で子ども祭の協力体制 をつくる。 支援者目的も共有し実施体制 (X=2-1を参考)	PTA 農家 商店 町内会長	公民館の 会議室	支援者の様子 協力体制の構築 の観察
② ③ 7月 中旬 (2回)	加味料理 を子ども が決める 計画づくり (グループワーク)	◎子どもも参加して具体的 にすることを決める。 7月のグループ(5名) (3名野菜・3名昔道具・1名運営)	PTA 農家 商店 町内会長 和道(1名)	公民館の 会議室	グループで 役割分担 ができる。 聞きとり (対話参加)の 観察
④ 9月	全体会議 (発表共有)	◎何をやるか、やることを発表 し共有する。 (農家、郷土芸能、昔道具、 グループ)	同上	公民館の 会議室	それぞれの グループの 企画内容 が共有できる 観察
⑤ 10月	グループ 活動	◎何かいさか、準備物の 買い物など。体験 グループ活動 (農作業 委員会) (草むしり)	目的に 応じて 支援者 決定	目的に 応じた 活動場所	グループで 自主的に 主体的に 活動できる 観察
⑥ 10月 末	直前会議 (全体調整)	◎グループ活動の結果の 共有		公民館の 会議室	活動結果の 共有ができ 当日開催の準備
⑦ 11月 3日	収穫祭	◎当日をおかえる。 (焼き芋) (来場者アンケート)	全参加者	公民館の 駐車場	祭を開催 できる 売上、来場者数
⑧ 11月 中旬	反省会	◎反省会 (聞きとり) 後夜祭 うさぎ		公民館の 会議室	失敗や良い 所を参加者 自身で考え 振り返る

来場者アンケート
の活動に
つながった

次回には栽培
について

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(B) グループ メンバー (木下, 西村, 岡田, 山田, 古玉, 田中)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

やりた..ことを自分(参加者)選んで決める。(企画会議)

○学習目標

青少年が参加して,具体的な内容を決める。

2 回・日時・場所

○回・日時

第2回 7月13日(日) 9時30分~ 11時30分

○場所

公民館会議室

3 講師, 指導者, 支援者

公民館職員(進行説明) ※青少年のうち,高校生は,リーダーとして,第回めから参加
農家 JA 昔遊びの700 (指導者,支援者として,作物や作品,遊び方など説明)

4 準備物

○参加者

筆記用具, 飲物

○主催者

ホワイトボード, ふせん, 紙, ハン
参加者の名札

5 会場図

応募してきた青少年を, 両がじめ
7グループに編成,
(小・中・高校生もバランスよく混ぜる)
やりた..ことが決まったら,
支援者, 指導者がグループに入る。

青少年5人+支援者で
7グループ作る。

(B) グループ

6 実施計画

時刻	内容	留意点
9:00	受付開始	名簿チェック. 名札を渡す. (グループごとに着席)
9:30	開会	
9:40	スタッフ紹介 全体の流れを説明 今日の作業を説明	目的, 目標を理解させる
9:50	地域の特産, 昔遊びの 紹介 (指導者, 支援者)	
10:20	グループで何をやりたか, 意見交換	
11:00	グループごとに今日の話し合いの 結果を発表	

学習プログラム開発をしよう

(C) グループ メンバー (下川 花浦 浜田 長直 石田)

テーマ **青少年教育**

市の概要
A

個人の要望

- ・子どもの居場所がない
- ・体験活動がしたい
- ・友達になりたい

社会の要請

- ・家庭・地域・学校等の連携
- ・体験・学習場の提供
- ・地域の行事が多い

地域課題

子どもの居場所がない
家庭・地域・学校との連携が必要

学習目的

子どもの居場所をつくり、家庭・地域・学校等の連携を図りながら、地域ぐるみで健やかな青少年の育成に取り組む。

学習目標

様々な体験活動を通して、子どもたちが自主的に考え活動できる力を養い、地域への郷土愛をほぐくむ。

【学習プログラムを開発しよう!】

(C) グループ メンバー (下山さん、松浦さん、英田さん、長道さん、石田さん)

1 学習目的

子どもの居場所をつくり、家庭、地域、学校等の連携を図りながら、地域ぐるみで健やかな青少年の育成に取り組む。

2 学習目標

- 様々な体験活動を通して、子どもたちが自立的な活動で力を養い、地域の郷土愛をほぐくむ。
- 子どもたちが、野外活動を通じて、活動内容を計画し、それを実践するにおいて、自覚や企画運営能力を高める。
- 危険な刃物の安全で正しい使い方を習得することにより、日常生活において役立てる。

3 プログラム名

初めて体験～in キャンプ

4 対象・定員

小学生とその保護者 20組

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

1人 2000円 (キャンプ場代・保険・食料・材料)

6 事前に必要な知識や準備物

地域の高齢者・キャンプの資料 (火のおこし方・服装など)
ナイフで切れる、軍手

7 留意点

安全管理

C711-70

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
1回目 7月の 土日 (全2回)	キャンプ 計画と 準備	◎ <u>子どもの会</u> ・自己紹介 ・オリエンテーション ・9食決め ・工作決め <hr/> ◎ <u>親子の会</u> ・自己紹介 ・「しおり」の完成	地域の人 (高齢者)	公民館	「しおり」の 発表
2回目 8月 土曜日 AM	キャンプ 準備と 準備	◎ 予算内で買い物 必要の物をそろえる	"	地域全体	
3回目 8月 土曜日 日曜日	キャンプ 体験と 準備	◎ 初めてのキャンプ体験と 安全に行う。 ・フラグ・飯盒などの料理 ・テントでの宿泊体験など 「しおり」にそって進める。	"	キャンプ場	円になって 一言ずつ。 4回目まで感想文を 書いてこい。
4回目 8月 最終週	キャンプ 振り返り	◎キャンプ体験の反省・振り返り ・フラグの展示会 ・キャンプの時の写真の展示 ↓ DVD-展示 (フラグ・写真・感想文)	"	公民館	反省会で感想文 を発表し 振り返り。 親、地域の人から 言われる。

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(C) グループ メンバー (下山さん、松浦さん、浜田さん、長迫さん、石田さん)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

キャンプの計画を立てよう！ part1 ～子どもの会～

○学習目標

自ら企画し、計画通りにより自主性を養う。

2 回・日時・場所

○回・日時

第1回

7月○日(土) 10時 00分～ 12時 00分

○場所

公民館会議室

3 講師、指導者、支援者

地域の人(高齢者)

4 準備物

○参加者

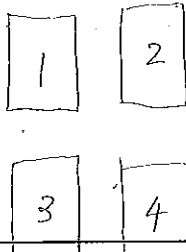
筆記用具

○主催者

模造紙、ポストイット、マジック、養生テープ、(各1冊) おりのひな型(おりの原稿)

5 会場図

前



・5組×4グループ

・学年縦割り

・グループリーダーを決めておく(高学年の中から)

6 実施計画

時刻	内容	留意点
9:30	<ul style="list-style-type: none"> 受付 (会議室前) 	<ul style="list-style-type: none"> 案内板, 長机, 名簿 各机に模造紙, ホストシート, マジックを置く 受付職員 1名 地域の人 (高齢者) 4名
10:00	<ul style="list-style-type: none"> オリエンテーション 自己紹介, アイスブレイク グループ分けの発表 (系統割り) キャンプの目標, 日程について 	<ul style="list-style-type: none"> 司会: 説明職員 1名
10:30	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク 夕食決め 工作決め 	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙にホストシートを貼る 地域の人 各グループ 1名
11:30	<ul style="list-style-type: none"> まとめと発表 グループリーダーが意見をまとめ、発表する 	<p>今回は子どもの意見のみで、part 2で親も加わり、「しおり」を完成させる。</p>

学習プログラム開発をしよう

(D) グループメンバー (森 中尾 橋本 池田 森岡)

テーマ **家庭教育支援**

市の概要
C

個人の要望

核家族が増加してきた。
親同士の交流が少なくなった。
育児支援が必要。

社会の要請

家庭・地域・学校等が連携した体制づくり

地域課題

親同士のつながりが少ないために、悩みをかかえながら孤立化している。
子育て世代の悩みを解決していくために親同士が交流する場を作っていく。

学習目的

子育て世代が、楽しく子育てできるように親同士のネットワークを形成し、悩みを解決できるように気遣いを高める。

学習目標

〇 離れ食「たじろ」を通して親同士の「サークル作り」
親子一緒に参加することで、悩みを解決できるようにする。
多様な価値観を持つことにより。

【学習プログラムを開発しよう!】

(D) グループメンバー (森 中尾 橋本 森園)

1 学習目的

子育て世代が楽しく子育てできるよう、親同士のネットワークを形成し、悩みを解決するための
気運を高める。

2 学習目標

離乳食アプリなどを通じて、親同士のサークル作り
親子と一緒に参加することで、多様な価値観を持つことにより、悩みを解決できるようになる。

3 プログラム名

10/10 ママが一緒に楽しむためのサークル 2017

4 対象・定員

対象 1歳以上の子どもを持つ保護者

定員 10組

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

保険料、500円 前払
1~5回目 1回につき 材料費として 200円
6回目 材料費 500円

6 事前に必要な知識や準備物

公民館 離乳食材料 保冷剤 離乳食用の道具 記帳用のおひらき 名簿	参加者 エプロン 三角巾、マスク、ふきん バスタオル、タオル、着がえ、スリッパ 離乳食用食器 飲み物
--	---

7 留意点

講師用謝金
記帳 → 安全面の配慮
職員が次回につなげる親同士のサークルに配慮する。メールアドレス交換できるように、親同士のサークルにする。

個別の悩み等の相談は関係機関に紹介できるようにする

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
1回目 7月半 (土) 10:00-12:00	栄養満点離乳食 ブック ホリック 編	◎目標 次回に上げる目標ブック ○内容 前期離乳食ブック	管理栄養士 託児ボランティア	公民館 調理室 和室	① 次回に上げる目標 ブックができていたか。
2回目 8月半 (土) 10:00-12:00	親子の絆は 絆シニアから	○目標 母親と赤ちゃんの絆あり ○内容 ベビーブック	ベビーブック 講師	公民館 和室	① 母親と赤ちゃんの絆 しているか。
3回目 9月半 (土) 10:00-12:00	栄養満点離乳食 ブック ステップ 編	◎目標 父親が離乳食をやるか ○内容 中期離乳食ブック	管理栄養士 託児ボランティア	公民館 調理室 和室	① 父親がベビーブックを 読んでいるか? ステップのまじり 父親がベビーブックと 一緒に読んでいるか?
4回目 10月半 (土) 10:00-12:00	ベビーダンス	目標 父親と赤ちゃんの絆あり 内容 ベビーダンス	ベビーダンス講師 託児ボランティア	公民館 和室	① 父親が離乳食ブックに 参加しているか。 ステップと書 いたか。
5回目 11月半 (土) 10:00-12:00	栄養満点離乳食 ブック シキア 編	◎目標 父親が離乳食をやるか ○内容 後期 離乳食から作るレシピ あつま	管理栄養士 託児ボランティア	公民館 調理室 和室	① 父親がベビーブックを 読んでいるか。 ブックと一覽して
6回目 12月半 (土) 10:00-12:00	クリスマス パーティー	○目標 キーホルダー作り ○内容 交流会 父親がおかしブック	子育てサークル 公民館職員	公民館 調理室 大ホール	① 具体的な会を通 じた感想をアンケート とる。

講座終了後
1ヵ月後アンケート
キーホルダー作り
確認する1回、アンケート

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(D) グループ メンバー (森、中尾、橋本、池田、森岡)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

栄養満点離乳食アプリ、ジャブ (後期) 編

○学習目標

父親が離乳食を作るようになる。

2 回・日時・場所

○回・日時

第 5 回	11 月 8 日 (土)	10 時 00 分 ~	12 時 00 分
-------	----------------	-------------	-----------

○場所

公民館 調理室 和室

3 講師、指導者、支援者

管理栄養士、託児ボランティア

4 準備物

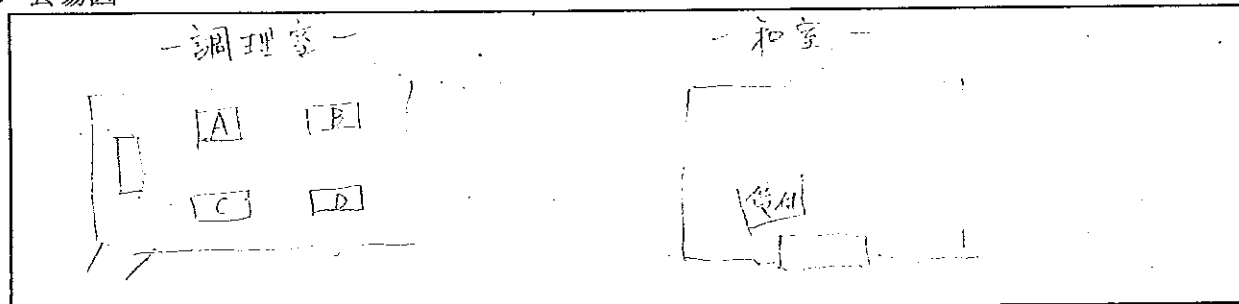
○参加者

エプロン、三角巾、マスク、ふきん、離乳食用食器、飲み物の蓋、お湯、水

○主催者

離乳食材料、離乳食用道具、父親用お持ち帰り材料、託児用おやつ、蓋の蓋、お湯

5 会場図



(D) グループ

6 実施計画

時刻	内容	留意点
9:30	<p>会場準備</p> <p>受付 和室</p> <p>受付と済ませ 3名 (1名未着) と預ける</p> <p>父親は、調理室へ移動</p>	<p>裏田様 長机(1) 受付名簿</p> <p>受付 職員1名</p> <p>託児ボランティア 5名</p> <p>絵本とおもちゃを準備する</p> <p>託児室の安全を確認する</p>
10:00	<p>オリエンテーション</p> <p>講座の目的や目標、日程について説明する</p> <p>アイスブレイクを行い、和やかな雰囲気を作る</p> <p>班構成と、自己紹介を行う</p>	<p>名札</p>
10:30	<p>離乳食について簡単なミニ講座</p> <p>離乳食とパパのおまみまのりの説明</p> <p>調理開始 ~ 完成させる。(集合写真と撮る)</p> <p>出来たら 和室で実食する</p> <p>食後は、管理栄養士さんにパパの頑張りに関してコメントしてもらう (家族写真と撮る)</p> <p>家族の思い 感想も話せる 発表</p> <p>質疑応答 管理栄養士さんに 答えられる</p>	<p>長机(10)</p>
11:30	<p>次回の参加をうながす</p>	
12:00	<p>パパの頑張りに関して</p>	

学習プログラム開発をしよう

(E) グループメンバー (中村, 早瀬, 植本, 新谷, 虎尾, 石川)

テーマ 青少年教育

市の概要
A

個人の要望

- 年上の子が年下の子に面倒を見るような環境をつくる
- 子どもたちの居場所があてほしい。
- 子どもたちの社会性が育てほしい。
- 親と子のコミュニケーションを強くする。
- 小学校高学年以上にも地域活動に参加してほしい。
- 仲間を集めて勉強やスポーツをしたい。
- 年をとっても安心して暮らしたい。
- 高齢の親に引こもりになってほしくない。

社会の要請

- 子どもたちに社会性を身につけ地域の担い手になってほしい。
- 世代間の交流を促進し、幅広い世代を地域に巻き込みたい。
- 中高年世代のうちに地域の担い手になってほしい。
- 孤立化している世代 (小さい子どもを持つ親、高齢者など) を地域のネットワークを使い守りたい。
- 緊急時のネットワーク作りをしたい。

行事など
など
を
な
め
て

地域課題

キーワード 孤立化の解消 ← 世代の分断化の解消

- 孤立化している高齢者、子育て世代、子どもたちがいる。
- 地域活動への参加が少なくなっている (町内会、子ども会に入らない) ^{よて} → 地域の世話の固定化
- 特定の世代 (主に小中高生の親世代) の参加がない。

学習目的

キーワード

- 世代を越えたつながりを作る。
- 地域の次の担い手を育てる。

学習目標

- 中高生に地域行事へ参加してもらうことにより、地域活動への意識を高めてもらう。

【学習プログラムを開発しよう!】

(E) グループメンバー (中村, 早瀬, 樋本, 新谷, 虎尾, 石川)

1 学習目的

- 世代を越えたつながりを作る。
- 地域の次の担い手を育てる。

2 学習目標

中高生に地域行事へ参加してもらうことにより、地域活動への意識を高めてもらう。

3 プログラム名

4 対象・定員

中高生 10名程度

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

参加費は無料。
出資金を集める。

6 事前に必要な知識や準備物

7 留意点

夏祭りの運営委員会には社長が出席する。

8 学習プログラムの展開

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
★1回 6/0(日)	仲間作り モチベーション作り	◎ お互いを知り仲間意識を育てる ・オリエンテーション ・ワークショップ(夏祭り参加について)	公民館職員 地域の方 (祭りの実行委員)	公民館	アンケート 観察
★2回 8/14()	地域活動 への参加	◎ 夏祭り参加 (出店とステージ出演) 今回は参加申込みなど事前の準備 (実行委員会への参加など)は公民館 サイドで行う。	地域の方 (実行委員 や 青年部の方)	夏祭り会場	観察 聞き取り。 祭りの参加者の 年齢構成を調べる。
★3回 8/下旬	反省、振り返り	◎ 夏祭りに関する反省会。 参加してからの感想や周りの反響など 振り返りを行う。	職員 地域の方	公民館	子供たちの感想を 聞く。
★4回 5 ★6回	ワークショップ (1~3回くらい)	◎ ワークショップ ・会社経営のノウハウを学ぶ ・経済の仕組みを学ぶ ・今後の活動計画を立てる。 ・職場体験	地域の方 (会社を経営 されている方 コンサルティング 会社の方 経営学者の方)	公民館 企業	企業の方への聞き取り。 子どもへのアンケート
★7回 5 ★9回	会社設立	◎ 役割分担会議 → 社員の募集など → 運営企画会議 → 実行委員会への参加	職員	公民館	
★10回	地域活動 への参加	◎ 夏祭りへの参加 今回は企画段階から参加。	地域の方	夏祭り会場	観察、聞き取り 祭りの参加者の 年齢構成を調べる
★11回	反省、振り返り	◎ 反省、振り返り ↓ 株主総会 ・代替え	職員	公民館	面談 地域の方をまじえ 報告会

学習プログラム開発をしよう

(F) グループメンバー (川本, 杉原, 稲本, 松村³⁶⁷, 松村美佳, 田村, 柳)

テーマ **高齢者教育**

市の概要

A

個人の要望

仲間づくり
健康づくり
人の役に立ちたい
趣味・教養を高める
老後の生活に必要な知恵

社会の要請

ネットワークづくり
介護予防
ボランティア
学習成果の地域還元
安心・安全に暮らし

地域課題

仲間づくり ↔ ネットワークづくり
健康づくり ↔ 介護予防
人の役に立ちたい ↔ ボランティア活動
趣味・教養を高めたい ↔ 学習成果の地域還元
老後の生活に必要な知恵 ↔ 安心・安全に暮らし

学習目的

老後の不安を解消するために、高齢者が心身共に健康で、安心・安全に暮らせるようになる。

学習目標

気軽にできる運動教室を開催することで、高齢者が健康づくりの楽しさを実感し、継続的に活躍できる仲間づくりをする。

【学習プログラムを開発しよう!】

(F) グループ メンバー ()

1 学習目的

老後の不安を解消するために、高齢者が心身共に健康で安心・安全に暮らせるようになる。

2 学習目標

気軽にできる運動教室を開催することで、高齢者が健康づくりの楽しさを実感し、継続的に活動できる仲間づくりをする。

3 プログラム名

秋じゃ! スポーツじゃ! みんなでやろや!!

4 対象・定員

60歳以上の高齢者、30名

5 参加費

(受益者負担を原則として、参加費を算定する。なお算出の根拠も明確にする。)

初回のみ 150円 { 保険代
お茶・お菓子代 (3回目)

6 事前に必要な知識や準備物

しおり、アンケート、応急処置用の氷、タオル、飲み物、救急箱、医療機関、AED
第1回のみ: オイル、第2,3回のみ: 室内シューズ、参加者用シール状の名札、スタンパッド

7 留意点

けが、車云倒りなど安全面の配慮、イスの準備、休憩時間、水分補給の声かけ

F

8 学習プログラムの展開

主体的、継続的に
「カーリング」活動をお互いグループをつくる。

回・日程	学習テーマ	各回の学習目標 (◎) 学習内容	学習支援者	学習場所	評価 (振り返りの方法)
第1回 10月8日 (水) 10:00 ~12:00	おうちで やるや。 リンパ マッサージ	◎ 参加者同士の交流を図る。 ◎ リンパマッサージを体験し、楽さを知り。 ・開講式とオリエンテーション (主旨、目的の説明, 2人ペアになりストレッチ、自己紹介) ・リンパマッサージ体験 (リンパマッサージの効果の講義とリンパマッサージ方法を学ぶ)	・リンパマッサージ指導者 ・公民館職員	・ハレット公民館 (和室)	・アンケート ◎ 目視で参加者の表情や一人で活動している参加者がいないかを正確に言える。 ◎ 講座終了後の参加者の表情も正確に言える。
第2回 10月22日 (水) 10:00 ~12:00	ラジオ 体操を 楽しもうや。	◎ 身近なラジオ体操の効果を知り、毎自宅で行うことができるようになる。 ・ラジオ体操 ・前回と違う方とペアになりストレッチを行いコミュニケーションを図る。 ・広島ラジオ体操を体験する。	・ラジオ体操指導士 ・公民館職員	・ハレット公民館 (ホール)	・アンケート ◎ = ◎ = ◎ 運動量をスムーズにしているか。 ◎ 前回の学習を実践しているか。
第3回 11月5日 (水) 10:00 ~12:00	室内カー リングで 汗かこうや。	◎ カーリングを通じて仲間で活動する楽しさを知り。 ◎ 継続的に活動できる仲間をつくる。 ・アイスブレイク ・前回と違う方とペアになりストレッチを通じて交流を図る。 ・カーリングを体験する。 ・全講座の振り返り。 ・継続的に活動する方を募集する。	・カーリング指導者 ・公民館職員	・ハレット公民館 (ホール)	・アンケート ◎ ②③④

【各回の実施計画を立ててみよう！】

(F) グループ メンバー (川本, 杉原, 舟本, 松村まゆ, 松村美佳, 田村柳剛)

1 学習テーマと学習目標

○学習テーマ

室内カーリングで 汗かきをや

○学習目標

カーリングを通じて 仲間と活動する楽しさを知る。継続して活動できる仲間をつくる。

2 回・日時・場所

○回・日時

第 3 回 11 月 5 日 (水) 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分

○場所

ぽんつと公民館 ホール

3 講師, 指導者, 支援者

カーリング 指導者

4 準備物

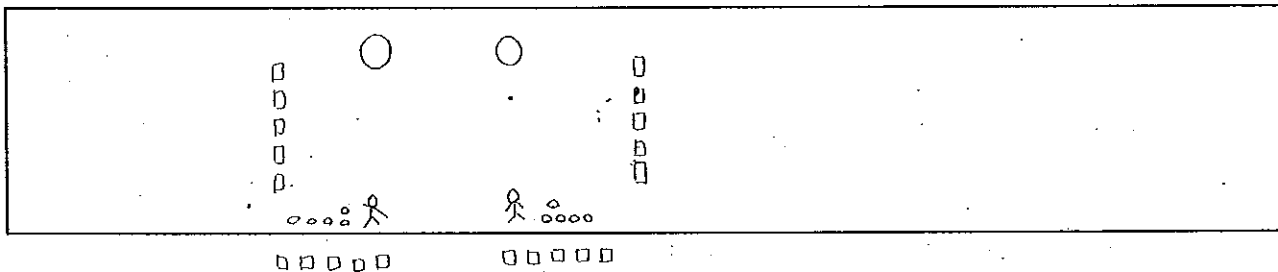
○参加者

タオル・飲み物・室内シューズ・スイングコート

○主催者

カーリング用具・参加シール (別紙) ゼッケン・得点板
AED・救急箱・マーカー・ルール資料・椅子

5 会場図



6 実施計画

時刻	内容	留意点
9:00	会場準備 コーリング用具一式 椅子をならべる。(30脚)	・チーム分けは事前にしておく。
9:30	受付	・案内板・長机(1) 受付名簿(チーム構成あり)
10:00	オリエンテーション ゲームルールの説明	・司会 = 職員 ・説明 = 指導員
10:15	準備運動 (広島弁ラジオ体操)	・CDデッキ・ラジオ体操CD
10:20	ゲーム開始 20分ごと 3セット	
11:00	振り返り・交流会	"コーリング"をしようを あまり押し過ぎない いかに"で"したか。 次もやってみようと思うので 果敢たる方はやってみませんか。 (続けようと思っておられる方は "で"はうかがね。) ↓ 次回の日程・予定
12:00	終了	<div data-bbox="997 1736 1125 1803" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;"> 明言する。 </div> 1回目 = 仲間づくりを目的にしている。